多発性骨髄腫

多発性骨髄腫　ベルケイド療法SC【難治性】週１回　　患者プロトコール

催吐リスク
軽度

投与プロトコール 1コース　35日間　制限なし 《開始時基準　PS:0～3(4)　100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
①	生理食塩液 デキサート注　6.6mg/2mL	100mL 5V	Day1、8 15、22	30分 点滴	開始後、Drへ連絡 （ﾍﾞﾙｹｲﾄﾞ投与）
②	ベルケイド　1.3mg/㎡	mg	Day1、8 15、22	皮下注	Drにて投与
	生理食塩液	1.2mL			

＜使用上の注意点＞

◆デキサート点滴開始後、すぐにDrにベルケイドの投与を依頼する。
　デキサート点滴終了までにDrが間に合わない場合は、ベルケイド投与後、生理食塩液20mLでフラッシングする。

◆デキサートは内服（レナデックス）でもよい。

【ベルケイド】

◆末梢神経障害に注意。

◆治療初期は、急性毒性症状の発現について、１～2時間経過観察を行う。

◆息切れ、呼吸困難、胸水、咳、発熱などの症状が発現することがあるので注意する。
　投与日から翌日にかけて発熱の可能性がある。発熱が持続する場合や呼吸器症状を伴う場合
　には、肺障害の可能性についても注意する。

◆心障害の既往や症状の危険因子の確認を行う。

◆起立性低血圧、低血圧が発現することがある。

◆高尿酸血症の予防のため、水分摂取を心がけ、予防のためザイロリック等を投与することがある。

＜調製時の注意点＞

【ベルケイド】

◆他剤との配合は不可。

◆調製後および投与中は、遮光の必要はない。（保管時は、遮光にて保存。）

◆溶解後は、8時間以内に使用すること。

◆他の薬剤が投与されているルートを用いての投与は行わない。

◆延長チューブを用いて投与した場合は、投与後生理食塩液20mLでフラッシングする。